

平成26年度事業報告

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

I. 総括

平成26年度においては、前年度以上に本部の収支改善がなされるよう、公益活動の維持、及び、さらなる発展のための基礎作りとその環境整備を主目的とする観点で活動をしてきた。

第68回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」をはじめとする各種行事は、環境省など関連諸機関との協力のもとで事業計画に沿って実行されており、連盟の普及啓発活動の核となっている。特に、第68回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」については、平成22年度以来の東京都での開催となり、港区にある毛利庭園でバードウォッチングを行うなど、従来にない新たな「つどい」の形を作ることができた。このことは今後の「野鳥保護のつどい」開催への大きな弾みとなり、特に平成28年度は、第70回記念大会ということもあり、今までの課題を十分反映させたものとしていきたい。

調査研究事業においては、昨年からコアジサシの渡りルート解明について調査中であり、平成26年度はリトアニアとの共同調査を開始し、リトアニアでの生息地調査をするとともに、4羽の個体にジオロケーター（位置情報を知るための機器）を装着した。平成27年度には、それらの再捕を計画している。

このほか、調査研究室では従来受注してきた鳥類調査を引き続き受注し、かつ新規案件を受注して連盟の安定的な収入確保に貢献する一方、平成26年度は嘱託研究員を動員して業務をこなすことが多く、今後常勤職員の採用を検討する必要がある。

バードピア事業については、普及啓発の一環として、地方でのセミナーへの講師派遣、イベント参加などを通じて、登録数の増加を図っており、徐々に登録数が増えている状況である。また、商品開発の一環として、バードピアに共鳴した企業が販売するエサ台や飼料の監修を行っている。

広報編集部においては、機関誌『私たちの自然』の表紙デザインのリニューアルをはじめ内容の充実を図り、また、ホームページにおいてもリニューアルを行い、海外への発信も含めて、よりわかりやすい形で、連盟を広く知らしめる努力を行っている。

会員の減少とそれに伴う会費収入の減少には歯止めがかかっていない状況だが、本部・支部において会員獲得に向けたアプローチは継続して行っており、かつ京都支部設立に向けた活動も継続中である。また、会費納入を年一度に統一し、機関誌で納入を呼び掛ける、あるいは口座からの自動引き落としを使う、など会員の利便性を高めることで改善されるのではないかという提案があり、検討中である。

このような活動の結果、平成26年度においては、期末の正味財産残高が増加し、収支状況は前年に比べても、また予算に対しても改善が見られた。しかしながら、これは釧路支部単体の黒字によるところが大きく、また大口の寄付も頂いた上でのことであるため、引き続き、安定的な公益事業の基盤づくりを行っていききたい。並行して剰余金についても平成28年度事業にてどのように解消するか検討していく。

II. 実施事業

1. 普及啓発室

1-1 愛鳥週間関連事業

(1) 第68回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

5月11日(日)にホテル・グランドハイアット東京(東京都港区)をメイン会場に環境省、(公財)日本鳥類保護連盟共催、文部科学省及び林野庁の後援により、常陸宮同妃両殿下のご臨席の下に開催した。

式典において、連盟総裁賞のほか、環境大臣賞などの野生生物保護功労者表彰を行うとともに、式典終了後に愛鳥パーティーを開催した。

(2) 平成27年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

全国の小・中・高校生を対象に環境省・文部科学省・林野庁の後援を得て実施した。4,285校から67,017点の応募があり、この中から各都道府県より推薦された416点を審査し、平成27年度用愛鳥週間ポスターの原画となる総裁賞のほか、環境大臣賞などの入賞作品を選定した。

また、支部は、都道府県知事推薦作品の選定などに協力した。

(3) 愛鳥週間関連各種普及啓発事業

5月13日(火)から18日(日)の間、新宿御苑インフォメーションセンターのアートギャラリーにおいて、「野鳥を知るバードカービング展 日本のガン・カモ類」を共催した。また、支部において、自然観察会、探鳥会、愛鳥ポスター展、愛鳥写真展及び表彰など、愛鳥思想の普及啓発行事を開催した。

1-2 巣箱プログラム

以下の4カ所で合計10回、巣箱架けプログラムを行った。児童向けプログラムでは、巣箱づくりから巣箱架けまでを行った。

- ① 麴町小学校・お茶の水小学校・・・9月20日(土)・2月7日(土)・2月28日(土)
- ② 新宿御苑・・・11月15日(土)・12月21日(日)
- ③ 所沢航空記念館(講師依頼)・・・9月23日(祝・火)・11月23日(祝・月)
・2月21日(土)
- ④ まちの保育園(講師依頼)・・・9月26日(金)・12月17日(火)

1-3 その他(講師依頼)

以下の2ヵ所から講師依頼を受け、それぞれのテーマに沿って講習等を行った。

- ① (公財)国民公園協会 新宿御苑『集まれキッズカメラマン』
・・・12月13日(土)
- ② (公財)神奈川県公園協会・相模原公園管理事務所「エコ・デコイ体験教室」
・・・8月2日(土)・8月3日(日)

1-4 普及啓発活動

以下の2ヵ所で連盟の活動を紹介するとともに、普及啓発用商品を販売した。

- ② 『新宿御苑みどりフェスタ2014』・・・4月29日(祝・火)
- ③ 『ジャパンバードフェスティバル2014』・・・11月1日(土)～2日(日)

1-5 第49回全国野生生物保護実績発表大会

11月25日(火)に環境省講堂において、環境省との共催、文部科学省・林野庁の後援により開催した。

都道府県知事から推薦された小・中・高校の児童・生徒による野生生物保護の活動実績の中から、事前審査で選定された10件の活動の発表を審査し、優秀校に対して環境大臣賞などの表彰を行った。

1-6 野鳥保護に関するキャンペーン

(1) 全国一斉テグス(釣り糸)ひろい2014

5月1日から10月31日までを期間として13都府県、27地点において実施した。

支部、会員及び専門委員のほか、関係団体並びに一般の参加を得て、海岸、河川及び湖沼などに放置されたテグスなどの回収を実施した。

(2) 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

4月1日から7月1日までを期間とし、(公財)日本野鳥の会及びNPO法人野生動物救護獣医師会を加えた3団体の共催、環境省の後援により実施した。

都道府県及び企業の協賛、協力を得て、普及啓発ポスターを作成、配布し、野鳥のヒナを安易に拾わないよう呼びかけを行った。

1-7 巣箱架設行事

3月18日(水)に鳥類保護議員懇話会(代表：谷垣禎一 衆議院議員)との共催により、環境省のほか、千代田区の小中学校生徒の参加、協力を得て、国会議事堂前の憲政記念館北庭園において、巣箱架設を実施した。

1-8 普及啓発を目的した商品の販売促進

野鳥カレンダー、野鳥シート、バードピンズ及び音声再生ペン(EC-Pen)などの商品の販売促進に努め、ニーズに応えたデザインの変更、仕様変更を進めた。

また、ペットフード業界と協力関係を築き、バードピア事業を視野に入れた企画提案を行い、野鳥のエサ、バードフィーダーの企画提案・販売計画を進めた。

2. バードピア推進部

2-1 登録者

3月31日現在、登録企業44、個人182。少しずつではあるが、増加している。

2-2 バードピアの説明会・研修会

(1) 茨城県龍ケ崎市

8月30日に龍ケ崎バードウォッチングクラブでバードピア普及のための説明会を行った。対象はクラブ会員、地元住民、龍ケ崎市民活動センター職員だった。その後センターから登録の希望があり、敷地をバードピアに登録した。また、龍ケ崎市のバードピアの中心にするため、今年度にイベントを計画、周囲でも普及啓発を行っていて、関係者の普及活動で茨城県内に登録者数が増えている。

龍ケ崎での普及の時に、自然がある場所でバードピアを作る必要があるかという問いにうまく答えられないとの意見があり、そのような質問に答えられるよう、事例集を作り始めた。

(2) 宮城県登米市

1月10日に長沼バードピア研修会と長沼での巣箱架けイベントを行った。伊豆沼を中心に、NPOを作り、エコツーリズムにバードピアを取り入れるという構想がある。

2-3 イベント関係

(1) みどりフェスタ

4月29日に新宿御苑で行われた「みどりフェスタ」に出展し、クラフトとグッズ販売を行った。また、対話の中で連盟の活動の宣伝を行った。

3. 調査研究室

3-1 コアジサシの渡りルート解明に関する調査

オーストラリア方面の太平洋ルートを把握することを目的として、平成25年度にコアジサシ100羽、平成26年度に17羽にジオロケータ（渡りルートを把握するための機器）を装着した。また、コアジサシの国際的な研究を展開するため、リトアニアとの共同研究事業を開始し、リトアニアにおいてもコアジサシ4羽にジオロケータを装着した。なお、本調査研究活動の一部は、三井物産環境基金とイオン環境財団より助成を受けて行った。

3-2 鳥インフルエンザ感染経路に関する調査

鳥インフルエンザ感染経路特定のための資料を蓄積するため、千葉、愛知、宮崎、鹿児島県の4県で鶏舎周辺の鳥類調査を実施した。加えて、水から鳥インフルエンザを抽出するための技術検討を、東京大学に委託して行った。なお、本研究活動は日本中央競馬会（JRA）からの助成を受けて行った。

3-3 各種調査事業

企業から、鳥類調査等の事業を受託し実施した。

3-4 自主調査・研究事業

ワカケホンセイインコを中心に、関係情報の収集、外部研究者への協力を行った。

4. 広報編集部

4-1 機関誌「私たちの自然」

平成26年度はテーマを「森の鳥」とし、機関誌編集委員会（平成26年度は、1回開催）での検討結果を踏まえ、更なる誌面の充実化を図った。より幅広い層の会員を獲得するための新しい誌面づくりをめざし、主として以下のことを実施した。

- ・表紙デザインを一新した。従来のイラストから写真に変更し、写真を公募し、会員や一般からの写真提供も受けている。
- ・鳥をはじめとする「生きもの」の間のつながりを分かりやすく伝える新連載「生きものピラミッド」を開始した。
- ・リトアニア大使夫人をはじめ、日本鳥類保護連盟に縁のある人々に、様々な視点から「鳥」について書いてもらう、「エッセイ」原稿掲載を開始した。
- ・「伊豆沼のカメラマン迷惑行為」記事を掲載し、野鳥カメラマンのマナーについて、警鐘を鳴らす。

4-2 支部報

神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県及び茨城県の各支部において、支部報「ふれんどりー」、「らいちょう」、「朱鷺」、「連盟通信」、「うぐいす」、「かわせみ便り」をそれぞれ発行し、地域の普及啓発を推進した。

4-3 ホームページ

ホームページを通じて連盟活動の広報・PRを行うとともに、愛鳥思想の普及啓発及び入会促進のための情報発信を行った。また、平成27年度のホームページリニューアルに向けての作業を行った。

5. その他

5-1 受託事業

環境省等国の機関、地方公共団体及び企業などから、事業を受託し、実施した。

5-2 シマフクロウ等希少鳥類保護基金事業

保護基金を活用して、給餌施設の補修、および巣箱の整備など、シマフクロウ保護繁殖のための事業を実施した。

5-3 愛鳥懇話会

連盟総裁である常陸宮殿下をお迎えして、12月12日(金)に日比谷松本楼において、約100名の参加者とともに、愛鳥懇話会を開催した。

5-4 日露渡り鳥保護協力事業

富山県支部において、ロシア科学アカデミーとの渡り鳥の保護に関する協力及び青少年交流を実施した。

5-5 専門委員活動

平成24年度に委嘱を行った専門委員125名に今年度においても引き続き、機関誌などへの情報提供及び地域の愛鳥思想普及啓発活動を呼び掛けた。

5-6 探鳥会、自然観察会等

主に支部において、子どもをはじめとする一般市民を対象にした各種探鳥会、自然観察・体験行事及びツバメ等の一斉調査などを適宜実施した。